

国語－２（第１学年） 伝えたいことを簡単な手紙に書く事例

【学習活動の概要】

1	単元名	がんばっていることを手紙で知らせよう
2	単元の目標	お世話になった人に、小学校生活での様子を分かってもらえるように、必要な事柄を集めて簡単な手紙を書くことができる。
3	評価規準	<p>【国語への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたいことを書いた手紙が相手に届く楽しさを感じながら、手紙を書こうとしている。</li> </ul> <p>【書く能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙を書く相手に向けて、学校生活の中から伝えたいことを集めたり、その中から自分が一番伝えたいことを選んだりしている。</li> <li>・あて名や自分の名前などを添えて書いている。</li> </ul> <p>【言語についての知識・理解・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・敬体で書かれた文章に慣れ、手紙の文章を敬体で書いている。</li> </ul>

4	教材	教科書教材文 自作のモデル文章教材
---	----	-------------------

5 主な学習活動

(1) 単元の指導計画（全4時間）

次	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次 ①	<p>◆学習の見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師がもらってうれしかった手紙の紹介を聞く。</li> <li>○ 学校生活の休み時間や給食時間、授業の様子を振り返り、それぞれが小学校に入学して一番がんばっていることを発表し合う。</li> <li>○ 一番がんばっていることを、お世話になった人（幼稚園や保育所の先生・祖父母など）に手紙で知らせるというめあてをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉で伝え合う手紙のもつよさを実感できるようにする。</li> <li>○学校生活を振り返ることで書く題材を選定するための視点が多様にあることに気付かせたり、相手を決めて手紙で伝えたいという思いを膨らませたりできるようにする。</li> </ul>
第二次 ②	<p>◆手紙に書きたい材料を集めて手紙を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手紙のモデル文を読み、手紙の基本的な書き方を知る。</li> <li>○ 学校でがんばっていることを様々に思い出して、今一番伝えたいことと伝えたい相手を決める。</li> <li>○ 伝えたいことが相手に伝わるように書く材料を選ぶ。</li> <li>○ 文章にあて名や自分の名前を添えて手紙文を書く。</li> <li>○ 書いた文章を読み返し、間違いなどがなか確かめる。</li> <li>○ 書いた手紙を友達と読み合い、よいところを見付け合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が伝えたいこと、伝える相手が喜んでくれそうなことの双方の観点から材料を収集できるようにする。</li> <li>○手紙に書くあて名や差出人の名前の役割を確かめる。</li> <li>○切手の貼付や住所の記載が必要であることなど実際の手紙や葉書が届く仕組みについても説明する。</li> <li>○これまでに用いてきた感想を述べる語彙を手掛かりに、自分の思いが伝わる言葉を用いるようにする。</li> <li>○「相手に読んでもらう」という意識をもちながら読み返すようにする。</li> <li>○「自分がもらったうれしい」というところを見付け合うようにする。</li> </ul>
第三次 ①	<p>◆学習を振り返り、手紙を書くことのよさを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ お世話になった人に手紙を届け、その際に感じたことを報告し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○書いた手紙を届けて相手に読んでもらったり、感想を聞いたりできるようにする。</li> <li>○実際に届けるのは時間外となるため、保護者や幼稚園・保育所等と連携を図るとともに、安全面にも十分配慮する。</li> </ul>

## 【解説】

### 【指導事例と学習指導要領との関連】

- 小学校学習指導要領・国語の第1学年及び第2学年「B書くこと」の指導事項「ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。」及び「イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」を取り上げて指導している。
- その際、「B書くこと」の言語活動例「オ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。」を通して指導することで、児童の伝えたい思いを膨らませ、指導の効果を高めた事例である。

### 【言語活動の充実の工夫】

#### ①相手や目的を明確化することで書きたい思いを膨らませる

手紙を書くことは文字言語で伝え合うことの代表的な言語活動である。単元の導入に当たっては、本事例のように教師自身がもらってうれしかった手紙を紹介したり、自分の学校生活を振り返って伝えたいことや伝えたい相手への思いを膨らませたりしていくことが、児童の課題意識を高めていく上で効果的である。

#### ②手紙がもつ特徴の理解を図る

本単元では、手紙を書く言語活動を通して指導をするに当たり、手紙がもつ特徴を理解できるようにしている。

- ・手紙には書き手と読み手があり、多くは特定の相手に向けて書かれるものであること。
- ・手紙が相手に届き、読んでもらえるようにするため、あて名や自分の名前が必要であること。
- ・実際に投函して届けてもらうためには、切手を貼ったり住所等を記載したりする必要があること。 など

なお、手紙の形式などについては、主に中学年において重点的に取り上げることとなる。こうした指導により、学年の発達の段階に応じながら、日常生活に必要とされる書く能力を育成できるようにしている。

#### ③材料収集の視点を明示

本事例では、手紙の特徴を踏まえながら、単元の指導目標である「お世話になった人に、小学校生活での様子を分かってもらえるように、必要な事柄を集めて簡単な手紙を書く」ことができるようにするために、材料収集の視点を押さえている。具体的には以下のような視点を意識できるようにしている。

- ・第一次において、学校生活を振り返る様々な視点を提示する。
- ・第二次においては、書く相手を決めた上で、自分が伝えたいことと伝える相手が喜んでくれそうなことの双方の観点から材料を集めるようにする。
- ・集めた材料の中から、相手に特に伝えたい事柄を選ぶようにする。

#### ④書くことのよさを実感する交流場面の設定

書くことのよさを実感できるように、書いた手紙が相手に届き、その場で感想をもらえるような場の設定を工夫している。こうしたことが次に書くときの大きなエネルギーとなる。なお、校外の活動となるため、実際の指導に当たっては、保護者や関係機関に事前に協力を依頼したり、安全面で十分配慮したりすることが重要である。

#### ⑤低学年における日常的な書くことの指導

低学年の児童の書く能力を高めるには、感じたことや伝えたい思いが膨らんでいるタイミングをとらえて書く学習を展開することが極めて効果的である。つまり、体験と表現との間隔をできるだけ縮めることが求められる。そうした場で表現される豊かな言葉を取り上げて蓄積していき、次の書く機会にも生かせるようにすることで語彙が拡充され、「楽しかった」「おもしろかった」だけではなく、自分の思いを表すのにふさわしい言葉を選んでいけるようになる。そのためにも、長時間をかけて大作を仕上げることに偏る指導ではなく、例えば手紙を書く言語活動などを通して、短時間であっても日常的に、相手や目的を意識し自分の思いを書いて表現する機会を適切に設定するなどの工夫が重要である。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類： ①, ③